

授業計画 (シラバス)

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立		授業の種類 講義		授業担当者 片岡 史陽
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年生 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「人間」を多目的に理解して、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について学び、介護場面における倫理的課題に対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1、「人間」の理解 2、尊厳と自立 3、人権尊重と権利擁護 4、介護における自立支援</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①「人間が生きる」ことの理解を深める。 ②人間としての尊厳の保持と自立支援の必要性について理解する。 ③介護場面における倫理的課題に対応できる基礎的能力を養う。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 教科のねらいと概要 2 人間の理解① (他者の理解) 3 人間の理解② (自己の理解) 4 人間の理解③ (尊厳と自立の意義) 5 人間の理解④ (生活の場での尊厳と自立) 6 人間の理解⑤ 7 人間の理解⑥ 8 人権思想の歴史 9 人権尊重と権利擁護① 10 人権尊重と権利擁護② 11 介護者の自立支援① 12 介護者の自立支援② 13 介護者の自立支援③ 14 教科のまとめ 15 試験</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規 参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席数 授業態度 試験 提出物を総合的に評価する</p>	

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 講義		授業担当者 片岡 史陽	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2年 前期	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護実践において重要な、人間関係を形成していく能力を高めることを目的とする。 ご利用者・職場・家族など、人間関係を形成していく上で必要な基本的コミュニケーション能力を養う。					
[授業全体の内容の概要] 特にご利用者、家族とのコミュニケーション、関係づくり、心のケアのための基礎的態度、技術を習得するために、演習を交えながら「人間関係」を理解する授業を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間関係を形成していく上で必要な基本的コミュニケーション能力を身につけ、ご利用者や家族と関係づくりができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 関係づくりのための人間の理解 2 関係づくりのための人間の理解 ①自己概念と人の成長 3 関係づくりのための人間の理解 ②「人間関係」は自分を知ることから始まる 4 関係づくりのための人間の理解 ③人間関係の形成 5 関係づくりのための人間の理解 ④価値観とは 6 関係づくりのための人間の理解 ⑤思い込み 7 コミュニケーションの基本 ①「コミュニケーション」って何だろう 8 コミュニケーションの基本 ②コミュニケーションの形態 9 コミュニケーションの基本 ③感情の表出・様々な形 10 コミュニケーションの基本 ④人が人を理解すること 11 コミュニケーションの基本 ⑤葛藤との付き合い方 12 コミュニケーションの基本 ⑥コミュニケーションにおける考察の方法 13 コミュニケーションの基本 ⑦プロセスレコードの活用方法 14 まとめ 15 まとめ・試験					
[使用テキスト・参考文献] 「人間の理解」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		

授業のタイトル (科目名) 社会の理解		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する学習とする。また、我が国の社会保障の基本的な考え方や歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人が生活していく家族という単位、地域、帰属する社会、社会構造の変化によってライフスタイルの変化、社会保障制度の発達など社会全体の成り立ちや現代社会における社会保障制度が理解できる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①個人、社会の成り立ちや関係性を理解できる ②社会保障の基本的な考え方を述べるができる</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活と福祉① (家庭生活の基本機能、家族、地域) 2 生活と福祉② (社会・組織、社会構造とライフスタイルの変化) 3 生活支援と福祉 (地域福祉、自助・公助・共助について) 4 社会保障制度の基本的な考え方 (概念・役割・意義) 5 社会保障制度の発達① (戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備) 6 社会保障制度の発達② (国民皆保険・皆年金の実現) 7 社会保障制度の発達③ (財源) 8 社会保障制度の発達④ (社会保障構造改革) 9 社会保障制度の発達⑤ (社会保障のしくみ) 10 社会保障制度の発達⑥ (社会扶助のしくみ) 11 社会保障制度の発達⑦ (社会保障の関連制度) 12 現代社会における社会保障制度① (現在の課題) 13 現代社会における社会保障制度② (これからの社会保障制度) 14 まとめ 15 試験 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉士全書「社会の理解」 メジカルフレンド社</p> <p>参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する</p>	

授業のタイトル (科目名) 社会の理解		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年通年 (後期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する学習とする。また、我が国の社会保障の基本的な考え方や歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会制度として介護保険や障害者総合支援法の成り立ちから社会状況に合わせて変化していった経過、今後の目標、その他の生活者としての利用者や自分たちの生活にかかわる社会福祉制度・法律などを理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①個人、社会の成り立ちや関係性を理解できる ②社会保障の基本的な考え方を述べることができる</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>16 前期のまとめ (後期授業のオリエンテーション)</p> <p>17 介護保険制度のしくみの基礎的理解①</p> <p>18 介護保険制度のしくみの基礎的理解②</p> <p>19 介護保険制度のしくみの基礎的理解③</p> <p>20 介護保険制度のまとめ</p> <p>21 障害者自立支援法の理解</p> <p>22 障害者自立支援法から障害者総合支援法への変遷</p> <p>23 障害者総合支援法の理解①</p> <p>24 障害者総合支援法の理解②</p> <p>25 障害者総合支援法のまとめ</p> <p>26 利用者が受ける保健・医療サービスに関連して知っておくべきこと</p> <p>27 高齢者・障害者・児童の福祉に関連して知っておくべきこと</p> <p>28 個人の権利を守る制度として知っておくべきこと</p> <p>29 まとめ</p> <p>30 試験</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉士全書「社会の理解」 メジカルフレンド社</p> <p>参考文献は適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する</p>	

授業のタイトル (科目名) 音楽		授業の種類 演習		授業担当者 汲田 幸世
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 施設で利用者の方達と、童謡や懐かしい歌（明治、大正、昭和の歌）と一緒に歌ったり、踊ったりしてコミュニケーションをとれる様にする。				
[授業全体の内容の概要] 小・中・高校で習ってきた音楽の授業とは違い、施設等で利用者の方たちに喜んでもらえる様な歌を主に勉強します。				
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 利用者の方達とコミュニケーションを取るひとつの手段として、色々な歌が歌えるようになるのを目指します。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
マ数				
1	かごの鳥、うさぎとかめ、南国土佐を後にして	他		
2	こいのぼり、リンゴの唄	他		
3	茶摘み、アルプス一万尺	他		
4	炭坑節、青い山脈	他		
5	夏は来ぬ、里の秋、紅葉	他		
6	涙そうそう	他		
7	千の風になって	他		
8	高原列車は行く	他		
9	蘇州夜曲	他		
10	憧れのハワイ航路	他		
11	七夕、山小屋の灯	他		
12	海、われは海の子	他		
13	故郷、誰か故郷を思わざる	他		
14	上を向いて歩こう、星影のワルツ	他		
15	川の流れのように	他		
[使用テキスト・参考文献] 「愛唱名歌」 野ばら社 毎時間、上記（本）以外の楽譜を配布する		[単位認定の方法及び基準] 出席、試験（グループ演奏）、授業態度を総合的に評価 特に授業態度を重視する		

授業のタイトル (科目名) 日本語表現		授業の種類 講義		授業担当者 大石 美智子																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)		必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活の充実を図る態度を育てる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>(1) 必要とされる基礎的な漢字・語彙・表記・表現の知識をまず身につけ、レポート・実務的 手紙文などの書き方を学ぶ。</p> <p>(2) 上記の内容のために、テキストをもとにした講義と実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>日本語における「読む」「聞く」「書く」の能力がバランスよく育成され、1年生の福祉専門教科の学習・実習を円滑かつ効果的に身につけるための基礎力養成。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1 自己紹介・表現するということ</td> <td>・紹介の文章を書く</td> </tr> <tr> <td>2 日本語の成り立ち</td> <td>・美しい日本語とは何か、考える</td> </tr> <tr> <td>3 基礎知識 (漢字)</td> <td>・漢字検定3級程度の漢字は全員が身に付くようにする</td> </tr> <tr> <td>4 基礎知識 (慣用句)</td> <td>・慣用句の使い方</td> </tr> <tr> <td>5 基礎知識 (ことわざ、文学史)</td> <td>・ことわざの使い方、各文の冒頭文を暗唱する</td> </tr> <tr> <td>6 漢字、ことわざ、故事成語</td> <td>・整理と確認</td> </tr> <tr> <td>7 文学史</td> <td>・近代の文学作品を読み、読書感想文を書く</td> </tr> <tr> <td>8 新聞コラムを書き写す</td> <td>・自分の考えをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9 新聞コラムを書き写す</td> <td>・考察する</td> </tr> <tr> <td>10 三字熟語、四字熟語</td> <td>・漢字検定準2級程度の漢字や熟語を知り、身に付ける</td> </tr> <tr> <td>11 四字熟語</td> <td>・漢字検定準2級程度の漢字や熟語を知り、身に付ける</td> </tr> <tr> <td>12 難読語</td> <td>・難読語の意味を辞書で調べ、理解する</td> </tr> <tr> <td>13 時事用語</td> <td>・テキスト、新聞を活用する</td> </tr> <tr> <td>14 文章題</td> <td>・解答、説明をする</td> </tr> <tr> <td>15 整理と確認</td> <td>・総まとめをする</td> </tr> </table>					1 自己紹介・表現するということ	・紹介の文章を書く	2 日本語の成り立ち	・美しい日本語とは何か、考える	3 基礎知識 (漢字)	・漢字検定3級程度の漢字は全員が身に付くようにする	4 基礎知識 (慣用句)	・慣用句の使い方	5 基礎知識 (ことわざ、文学史)	・ことわざの使い方、各文の冒頭文を暗唱する	6 漢字、ことわざ、故事成語	・整理と確認	7 文学史	・近代の文学作品を読み、読書感想文を書く	8 新聞コラムを書き写す	・自分の考えをまとめる	9 新聞コラムを書き写す	・考察する	10 三字熟語、四字熟語	・漢字検定準2級程度の漢字や熟語を知り、身に付ける	11 四字熟語	・漢字検定準2級程度の漢字や熟語を知り、身に付ける	12 難読語	・難読語の意味を辞書で調べ、理解する	13 時事用語	・テキスト、新聞を活用する	14 文章題	・解答、説明をする	15 整理と確認	・総まとめをする
1 自己紹介・表現するということ	・紹介の文章を書く																																	
2 日本語の成り立ち	・美しい日本語とは何か、考える																																	
3 基礎知識 (漢字)	・漢字検定3級程度の漢字は全員が身に付くようにする																																	
4 基礎知識 (慣用句)	・慣用句の使い方																																	
5 基礎知識 (ことわざ、文学史)	・ことわざの使い方、各文の冒頭文を暗唱する																																	
6 漢字、ことわざ、故事成語	・整理と確認																																	
7 文学史	・近代の文学作品を読み、読書感想文を書く																																	
8 新聞コラムを書き写す	・自分の考えをまとめる																																	
9 新聞コラムを書き写す	・考察する																																	
10 三字熟語、四字熟語	・漢字検定準2級程度の漢字や熟語を知り、身に付ける																																	
11 四字熟語	・漢字検定準2級程度の漢字や熟語を知り、身に付ける																																	
12 難読語	・難読語の意味を辞書で調べ、理解する																																	
13 時事用語	・テキスト、新聞を活用する																																	
14 文章題	・解答、説明をする																																	
15 整理と確認	・総まとめをする																																	
[使用テキスト・参考文献] 「プライム常用国語」第一学習社		[単位認定の方法及び基準] ・筆記試験 ・提出物 ・授業中の態度、意欲																																

授業のタイトル (科目名) 日本語表現		授業の種類 講義		授業担当者 大石 美智子																																													
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年通年(後期)		必修・選択 必修																																													
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばす。模範となる表現に接することで言語感覚を磨き、進んで表現しようとする意欲を喚起し社会生活の充実を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>(1) 多面的な漢字・語彙・表記・表現の知識を身につけ、精密かつ迅速に聞き取る練習・読み取る練習を行う。</p> <p>(2) 上記の内容のために、テキストをもとにした講義と実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>正確な聞き取りや読み取りの力とともに、多角的な国語表現力を備え、今後介護福祉士として求められる知識技能を、常に主体的に学んでいく態度を身につける。</p>																																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>わかりやすく正確に表現する</td> <td>・主語・述語のねじれ、句読点の打ち方、副詞の呼応に注意する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作文のルール</td> <td>・原稿用紙の使い方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文章構成の方法</td> <td>・頭括型、尾括型、双括型の方法を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>課題作文</td> <td>・志望動機を書く</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題作文</td> <td>・職業観を述べる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>課題作文</td> <td>・私のセールスポイント、自己を語る</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>課題作文</td> <td>・教育問題、教育する意味</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>課題作文</td> <td>・環境問題を考える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>履歴書の書き方</td> <td>・履歴書を清書する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>面接の受け方</td> <td>・グループで練習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>手紙の書き方</td> <td>・縦書き、横書きの両方を練習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>電話の応対</td> <td>・話し方のマナーを知る</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>敬語の使い方</td> <td>・基礎知識を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>敬語の使い方</td> <td>・練習問題を通して、誤用の氾濫を確認する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総まとめ</td> <td>・テキスト総まとめ 練習問題</td> </tr> </table>					1	わかりやすく正確に表現する	・主語・述語のねじれ、句読点の打ち方、副詞の呼応に注意する	2	作文のルール	・原稿用紙の使い方	3	文章構成の方法	・頭括型、尾括型、双括型の方法を学ぶ	4	課題作文	・志望動機を書く	5	課題作文	・職業観を述べる	6	課題作文	・私のセールスポイント、自己を語る	7	課題作文	・教育問題、教育する意味	8	課題作文	・環境問題を考える	9	履歴書の書き方	・履歴書を清書する	10	面接の受け方	・グループで練習	11	手紙の書き方	・縦書き、横書きの両方を練習	12	電話の応対	・話し方のマナーを知る	13	敬語の使い方	・基礎知識を学ぶ	14	敬語の使い方	・練習問題を通して、誤用の氾濫を確認する	15	総まとめ	・テキスト総まとめ 練習問題
1	わかりやすく正確に表現する	・主語・述語のねじれ、句読点の打ち方、副詞の呼応に注意する																																															
2	作文のルール	・原稿用紙の使い方																																															
3	文章構成の方法	・頭括型、尾括型、双括型の方法を学ぶ																																															
4	課題作文	・志望動機を書く																																															
5	課題作文	・職業観を述べる																																															
6	課題作文	・私のセールスポイント、自己を語る																																															
7	課題作文	・教育問題、教育する意味																																															
8	課題作文	・環境問題を考える																																															
9	履歴書の書き方	・履歴書を清書する																																															
10	面接の受け方	・グループで練習																																															
11	手紙の書き方	・縦書き、横書きの両方を練習																																															
12	電話の応対	・話し方のマナーを知る																																															
13	敬語の使い方	・基礎知識を学ぶ																																															
14	敬語の使い方	・練習問題を通して、誤用の氾濫を確認する																																															
15	総まとめ	・テキスト総まとめ 練習問題																																															
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]																																															
「プライム常用国語」第一学習社 「小社会書き写しノート」高知新聞社		・筆記試験 ・提出物(小社会書き写しノートを含む) ・授業中の態度、意欲																																															

授業のタイトル (科目名) レクリエーション活動援助法 I		授業の種類 講義・実技実習・演習	授業担当者 横川 遊龜壽	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] レクリエーション支援者としての人間性を育て、福祉現場で実働できる理論と実技を身に付ける。				
[授業全体の内容の概要] レクリエーション理論と実技を日レク・インストラクターの学習内容に準拠して学習する。				
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 福祉現場でレクリエーション支援の企画と実技が出来るようになる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 授業方法は3回をめぐりに講義と実技の演習を重ねて展開する。項目は各回のメインとなるものである				
1、レクリエーション概論 1レクリエーションとは (学習のガイダンス) 科目1 2、楽しさを通しての心の元気づくり 科目2 3、レクリエーション活動の習得 II-1 個々の活動の習得 ゲーム 科目5 4、レクリエーション支援の理論 1-1信頼関係づくりの理論 科目3 5、レクリエーション支援の方法 1-1信頼関係づくりの方法、ホスピタリティ 科目4 6、個々の活動の習得 II-1 フォークダンス (レクダンス) 科目5 7、良好な集団作りの理論、II-1 アイスブレイキングの方法 科目4 8、レクリエーション支援の方法II-2個々の活動の習得 ニュースポーツ 科目5 9、良好な集団作りの方法 II-2 良好な集団作りの方法 アイスブレイキング 2 科目4 10、レクリエーション活動の習得 1-1モデルプログラムの習得1 科目5 11、レクリエーション支援の方法 III-1 自主的主体的に楽しむ力を育む 科目4 レクリエーション活動の展開方法 1 12、レクリエーション支援の方法 III-2 自主的主体的に楽しむ力を育む 科目4 レクリエーション活動の展開方法 2 13、レクリエーション支援演習 II-1 プログラムの立案1 科目6 14、レクリエーション活動の習得 II-8 個々の活動の習得クラブト 科目5 15、まとめとテスト				
科目番号および学習項目番号は日本レクリエーション協会の平成29年度インストラクター養成カリキュラムに準ずる。				
外部の実習を事業参加、スタッフ参加をそれぞれ実施する。				
[使用テキスト・参考文献] 「楽しさを通した心の元気づくり」 レクリエーション支援の理論と方法 (財) 日本レクリエーション協会		[単位認定の方法及び基準] 履修時間と理論のテスト及び実技の指導技術を総合的に評価する 施設実習の報告、レク体験レポートも考慮する		

授業のタイトル (科目名) レクリエーション活動援助法Ⅱ		授業の種類 講義・実技実習・演習		授業担当者 横川 遊龜壽																																																																															
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修																																																																															
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉現場において、利用者の方々に楽しさを提供するためのレクリエーション事業の企画・指導運営・評価が出来る理論と実技を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①素材・アクティビティを学びながら、指導実技を体験的に学習する。 ②福祉レクリエーションの基本を理解し、利用者の方々の生活の質を高め、楽しさを共有するための事業の企画・運営・評価ができる能力を段階的に学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) 一人でも、また、組織の中でも、レクリエーション事業を企画推進できる。日レクインストラクターの履修単位を取得する。</p>																																																																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ※3コマを一つの目安として項目を重ね講義・実技・実習・演習等を重ね行なう。下記内容はそのコマのメインとなる項目である、</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>レクリエーションの目的</td> <td>Ⅱ-2</td> <td>心の元気づくりの課題と地域のきずなを考える</td> <td>科目2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レクリエーション支援の方法</td> <td>1-2</td> <td>信頼関係づくりの方法</td> <td>穂さびたり亭</td> <td>科目4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レクリエーション支援の理論</td> <td>Ⅲ</td> <td>自主的・主体的に楽しむ力を育む理論</td> <td></td> <td>科目3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>レクリエーション活動の習得</td> <td>Ⅱ-1</td> <td>個々の活動の習得1 ゲーム</td> <td></td> <td>科目5</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>レクリエーション支援の方法</td> <td>Ⅱ-2</td> <td>良好な集団作りの方法</td> <td>アイスブレイキング2</td> <td>科目4</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>レクリエーション活動の習得</td> <td>Ⅱ-1</td> <td>個々の活動の習得8</td> <td>ソング</td> <td>科目5</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>レクリエーション活動の習得</td> <td>1-2</td> <td>モデルプログラムの習得</td> <td></td> <td>科目5</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>レクリエーション支援の方法</td> <td>Ⅲ-2</td> <td>自主的・主体的に楽しむ力を育む レクリエーション活動の展開方法3</td> <td></td> <td>科目4</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>レクリエーション支援の演習</td> <td>I</td> <td>リスクマネジメントの方法</td> <td></td> <td>科目6</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>レクリエーション支援の演習</td> <td>Ⅱ-2</td> <td>プログラムの立案</td> <td></td> <td>科目6</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>レクリエーション支援の方法</td> <td>Ⅲ-4</td> <td>自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 レクリエーション活動の展開方法4</td> <td></td> <td>科目4</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レクリエーション支援の演習</td> <td>Ⅱ-3</td> <td>プログラムの立案3</td> <td></td> <td>科目6</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レクリエーション活動の習得</td> <td>Ⅱ-4</td> <td>個々の活動の習得 4</td> <td>レクダンス</td> <td>科目5</td> </tr> </table> <p>15、まとめとテスト</p> <p>科目番号および項目の番号は平成29年度日レク、インストラクター養成カリキュラムに準じたものである ※事業参加、スタッフ参加による外部の実習を行う。</p>						1	レクリエーションの目的	Ⅱ-2	心の元気づくりの課題と地域のきずなを考える	科目2		2	レクリエーション支援の方法	1-2	信頼関係づくりの方法	穂さびたり亭	科目4	3	レクリエーション支援の理論	Ⅲ	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論		科目3	4	レクリエーション活動の習得	Ⅱ-1	個々の活動の習得1 ゲーム		科目5	5	レクリエーション支援の方法	Ⅱ-2	良好な集団作りの方法	アイスブレイキング2	科目4	6	レクリエーション活動の習得	Ⅱ-1	個々の活動の習得8	ソング	科目5	7	レクリエーション活動の習得	1-2	モデルプログラムの習得		科目5	8	レクリエーション支援の方法	Ⅲ-2	自主的・主体的に楽しむ力を育む レクリエーション活動の展開方法3		科目4	9	レクリエーション支援の演習	I	リスクマネジメントの方法		科目6	10	レクリエーション支援の演習	Ⅱ-2	プログラムの立案		科目6	11	レクリエーション支援の方法	Ⅲ-4	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 レクリエーション活動の展開方法4		科目4	13	レクリエーション支援の演習	Ⅱ-3	プログラムの立案3		科目6	14	レクリエーション活動の習得	Ⅱ-4	個々の活動の習得 4	レクダンス	科目5
1	レクリエーションの目的	Ⅱ-2	心の元気づくりの課題と地域のきずなを考える	科目2																																																																															
2	レクリエーション支援の方法	1-2	信頼関係づくりの方法	穂さびたり亭	科目4																																																																														
3	レクリエーション支援の理論	Ⅲ	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論		科目3																																																																														
4	レクリエーション活動の習得	Ⅱ-1	個々の活動の習得1 ゲーム		科目5																																																																														
5	レクリエーション支援の方法	Ⅱ-2	良好な集団作りの方法	アイスブレイキング2	科目4																																																																														
6	レクリエーション活動の習得	Ⅱ-1	個々の活動の習得8	ソング	科目5																																																																														
7	レクリエーション活動の習得	1-2	モデルプログラムの習得		科目5																																																																														
8	レクリエーション支援の方法	Ⅲ-2	自主的・主体的に楽しむ力を育む レクリエーション活動の展開方法3		科目4																																																																														
9	レクリエーション支援の演習	I	リスクマネジメントの方法		科目6																																																																														
10	レクリエーション支援の演習	Ⅱ-2	プログラムの立案		科目6																																																																														
11	レクリエーション支援の方法	Ⅲ-4	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 レクリエーション活動の展開方法4		科目4																																																																														
13	レクリエーション支援の演習	Ⅱ-3	プログラムの立案3		科目6																																																																														
14	レクリエーション活動の習得	Ⅱ-4	個々の活動の習得 4	レクダンス	科目5																																																																														
<p>[使用テキスト・参考文献] 楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 (財) 日本レクリエーション協会</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 履修時間と理論のテスト及び実技技術の技能 現場実習のレポートの総合評価</p>																																																																																

授業のタイトル (科目名) 介護概論A		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂																																		
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年前期		必修・選択 必修																																		
[授業の目的・ねらい] <p>介護の定義、介護福祉士を取り巻く状況を理解しながら、なぜ介護の専門職としての必要性が高まっているのかを知り、必要な職業倫理を学ぶ。介護の専門職としての職業倫理に基づいた介護、根拠に基づいた介護が理解できる。そして、利用者の『尊厳の保持』『自立支援』という視点を明確にするとともに、介護を必要とする人を生活の視点からとらえることができるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] まず、自分たちの生活を構成する要素や特性を理解することから始める。それを踏まえたうえで、高齢者や障害者を生活障害の視点から理解する。そして、物理的・人的環境などの様々な面から利用者の生活環境をとらえる。 介護福祉士の法的根拠を理解し、職業倫理、『尊厳を支える』という介護を学ぶ。要介護者の生活や思いをベースとした介護のあり方が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護福祉士の原則・倫理を理解し、介護の意義・専門性を理解できる。個別ケアの重要性を理解したうえでの介護のあり方、介護職が行う生活支援の意義が理解できる。 ICFやリハビリテーションの考え方を理解できる。を理解できる。</p>																																						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護概論とは (生活歴、ジェノグラム作成)</td> <td style="width: 50%;">2 介護福祉士を取り巻く状況</td> </tr> <tr> <td>3 介護の成り立ち①</td> <td>4 介護の成り立ち②</td> </tr> <tr> <td>5 介護の成り立ち③</td> <td>6 介護の概念・定義</td> </tr> <tr> <td>7 介護の見方・考え方の変化</td> <td>8 介護の専門性</td> </tr> <tr> <td>9 利用者に合わせた生活支援</td> <td>10 介護福祉士の倫理①</td> </tr> <tr> <td>11 介護福祉士の倫理②</td> <td>12 求められる介護福祉士像及び役割と機能</td> </tr> <tr> <td>13 介護における専門職能団体の活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 介護サービスのあり方・介護の仕事の本質的価値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 介護サービス提供の場において介護福祉士の役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 介護を必要とする人の理解</td> <td>17 私たちの生活の理解</td> </tr> <tr> <td>18 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護</td> <td>19 QOLの視点の重視</td> </tr> <tr> <td>20 『その人らしさ』と『生活ニーズ』の理解</td> <td>21 個別支援の視点</td> </tr> <tr> <td>22 生活障害の理解</td> <td>23 生活環境の重要性</td> </tr> <tr> <td>24 人的な生活環境の重要性</td> <td>25 介護のはたらきと基本的視点</td> </tr> <tr> <td>26 さまざまな生活支援とその意義①</td> <td>27 さまざまな生活支援とその意義②</td> </tr> <tr> <td>28 さまざまな生活支援とその意義③</td> <td>29 尊厳を支える介護 (高齢者虐待防止法)</td> </tr> <tr> <td>30 試験</td> <td></td> </tr> </table>					1 介護概論とは (生活歴、ジェノグラム作成)	2 介護福祉士を取り巻く状況	3 介護の成り立ち①	4 介護の成り立ち②	5 介護の成り立ち③	6 介護の概念・定義	7 介護の見方・考え方の変化	8 介護の専門性	9 利用者に合わせた生活支援	10 介護福祉士の倫理①	11 介護福祉士の倫理②	12 求められる介護福祉士像及び役割と機能	13 介護における専門職能団体の活動		14 介護サービスのあり方・介護の仕事の本質的価値		15 介護サービス提供の場において介護福祉士の役割		16 介護を必要とする人の理解	17 私たちの生活の理解	18 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護	19 QOLの視点の重視	20 『その人らしさ』と『生活ニーズ』の理解	21 個別支援の視点	22 生活障害の理解	23 生活環境の重要性	24 人的な生活環境の重要性	25 介護のはたらきと基本的視点	26 さまざまな生活支援とその意義①	27 さまざまな生活支援とその意義②	28 さまざまな生活支援とその意義③	29 尊厳を支える介護 (高齢者虐待防止法)	30 試験	
1 介護概論とは (生活歴、ジェノグラム作成)	2 介護福祉士を取り巻く状況																																					
3 介護の成り立ち①	4 介護の成り立ち②																																					
5 介護の成り立ち③	6 介護の概念・定義																																					
7 介護の見方・考え方の変化	8 介護の専門性																																					
9 利用者に合わせた生活支援	10 介護福祉士の倫理①																																					
11 介護福祉士の倫理②	12 求められる介護福祉士像及び役割と機能																																					
13 介護における専門職能団体の活動																																						
14 介護サービスのあり方・介護の仕事の本質的価値																																						
15 介護サービス提供の場において介護福祉士の役割																																						
16 介護を必要とする人の理解	17 私たちの生活の理解																																					
18 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護	19 QOLの視点の重視																																					
20 『その人らしさ』と『生活ニーズ』の理解	21 個別支援の視点																																					
22 生活障害の理解	23 生活環境の重要性																																					
24 人的な生活環境の重要性	25 介護のはたらきと基本的視点																																					
26 さまざまな生活支援とその意義①	27 さまざまな生活支援とその意義②																																					
28 さまざまな生活支援とその意義③	29 尊厳を支える介護 (高齢者虐待防止法)																																					
30 試験																																						
[使用テキスト・参考文献] 「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」 (第4版) 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)・提出物・出席状況・授業態度 (20%) について総合的に評価する																																				

授業のタイトル (科目名) 介護概論B		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護サービスの質と安定性を確保するしくみであるケアマネジメントの概略を学んだうえで、そこを利用する人々と介護のあり方を明確にする。また、そこにかかわる関連職種や機関の特性を理解し、チームを担える介護職になれるように学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義やグループワークを通じて、介護保険制度における現在の介護サービスの種類や意義、目的を学ぶ。また、地域における介護サービスのあり方を学び、関連機関の所在地を調査することで、身近な介護サービスへの理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護保険制度における介護サービスの種類や提供の場を理解し、その場における他職種連携や、地域連携を理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護サービスの意味としくみ 2 ケアマネジメントの意味としくみ 3 介護保険制度のあり方、今後の課題 4 介護サービスの種類と提供の場 (介護保険制度によるサービスの概要) 5 介護サービス提供の場の特性 (高齢者関連：訪問系・通所系) 6 同上 (高齢者関連：短期入所系・複合型・入所系) 7 同上 (高齢者関連：地域密着型系) 8 介護サービスの種類と提供の場 (障害者のためのサービスの概要) 9 同上 (障害者関連：訪問系・通所系) 10 同上 (障害者関連：入所系・小規模入所系) 11 介護実践における連携 12 協働職種の機能と役割 13 地域連携の意義と目的、関係機関の機能と役割 14 まとめ 15 試験 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「介護の基本Ⅱ」 (第4版) 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験(80%)・提出物・出席状況・授業態度(20%)について総合的に評価する</p>	

授業のタイトル (科目名) 介護概論C		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。さらに、介護者自身の健康管理の必要性を理解し、職業人としての人格形成を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義やグループワークを通して、感染症や事故など介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法を学ぶ。また、介護者の健康や安全問題、環境整備について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護における安全確保の必要性と、その方法について理解できる。また、職業観や労働観を養い、自らの介護観を構築できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実践における連携 2 協働職種の機能と役割 3 地域連携の意義と目的、関係機関の機能と連携 4 介護における安全の確保 5 事故防止、安全対策 6 リスクマネジメントの基礎と実際 7 生活の場での感染対策 8 高齢者施設と感染対策 9 感染対策の基礎知識 10 健康管理の意義と目的 11 健康管理に必要な知識と技術 12 安心して働ける環境づくり 13 自分が目指す介護福祉士像 14 自分が目指す介護福祉士像 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護の基本Ⅱ」 (第3版) 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験(80%)・提出物・出席状況・授業態度(20%)について総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) リハビリテーション論		授業の種類 講義	授業担当者 岡部 孝生
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>リハビリテーションの理念と概要を理解してもらい、その上でリハビリテーションにおける介護福祉士の役割を認識してもらう事を目的としています。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>テキストに沿って授業を展開します。スライドや動画を多用することでリハビリテーションについての理解を深めてもらいます。必要に応じて、実技も取り入れる予定です。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を認識する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念① 2. リハビリテーションの理念② 3. リハビリテーションの領域と役割① 4. リハビリテーションの領域と役割② 5. リハビリテーションに関する社会資源① 6. リハビリテーションに関する社会資源② 7. リハビリテーションと福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり① 8. リハビリテーションと福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり② 9. リハビリテーション介護① 10. リハビリテーション介護② 11. 障害別リハビリテーションの実際① 12. 障害別リハビリテーションの実際② 13. 障害別リハビリテーションの実際③ 14. 地域リハビリテーション 15. 定期試験 			
[使用テキスト・参考文献] リハビリテーション論 (編) 澤村誠志		[単位認定の方法及び基準] 出席ならびに定期試験	

授業のタイトル (科目名) 災害救護		授業の種類 講義		授業担当者 土居 清彦	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として各種災害からの「とっさの事態」に対応できる能力を育成する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 敵を知り・己を知る自己の健康管理及び自己統制のできる自分を育成する。 各種災害から生まれる目に見えない危険・苦痛を見抜き、その対処行動を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 知っていることと正しくできることは違う。命に関する救命・救助行動を知識と体に理解させるための行動理解を高める</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と災害救護 2. 災害の定義及び種類 3. 災害と健康障 4. 災害後の心的ストレス 5. 災害医療の特徴 6. 災害と情報 7. 災害救護の避難対処法と搬送法 8. 災害救護の命綱・ロープワーク 9. 被災患者の手当法・バイタルチェック 10. ストッキング搬送法 11. 止血法 12. 包帯法・固定法 13. CPR・AED 14. CPR・AED 15. まとめ・試験 					
[使用テキスト・参考文献] リハビリテーション論 (編) 澤村誠志			[単位認定の方法及び基準] 出席ならびに定期試験		

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術A		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護におけるコミュニケーションの役割について理解ができ、利用者・家族との信頼関係を築く上で重要な手段であることを学ぶ。またチームで利用者の生活を支援させていただき専門職として、仲間・多職種との良好なコミュニケーションのあり方について理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護職におけるコミュニケーションの基本、介護場面における利用者・家族・チーム・多職種とのコミュニケーションのあり方について、講義と演習を取り入れながら行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について理解できる。 ・コミュニケーションの困難な方に対するコミュニケーション方法について理解できる。 ・チーム・多職種との連携の重要性を理解できる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは (自己紹介) 2. コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの基本 3. 介護におけるコミュニケーションの役割 4. 介護における生活支援とコミュニケーション 5. 話を聴く技法 6. 利用者の感情表現を察する技法 7. 利用者の納得と同意を得る技法 8. 中間まとめ 9. 質問の技法 10. 相談・助言・指導の技法、バイステックの7原則 11. 利用者の意欲を引き出す技法 12. 利用者と家族の意向を調整する技法 13. 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 14. まとめ 15. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「コミュニケーション技術」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術B		授業の種類 演習	授業担当者 汲田 幸世・野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>コミュニケーションの中心を、常に利用者におき、利用者の特性、介護場面に応じた援助的コミュニケーションの方法を学ぶ。</p> <p>介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解しその方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「コミュニケーション障害のある利用者への対応を考えるための視点、対応方法、選択の視点、実践結果の検証の視点と方法」、「介護におけるチームのコミュニケーション」について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>コミュニケーション障害を理解し、その特性に応じたコミュニケーションの技法を習得する。</p> <p>介護におけるチームのコミュニケーションの意義と具体的方法を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションの基本技術 2 コミュニケーション障害の理解 ～コミュニケーションと脳の関係～ 3 コミュニケーション障害のある利用者への対応 4 音楽を媒介したコミュニケーションの実際 (施設体験) ① 5 音楽を媒介したコミュニケーションの実際 (施設体験) ② 6 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～高次脳機能障害～ 7 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～失語症・構音障害～ 8 音楽を媒介したコミュニケーションの実際 (施設体験) ③ 9 音楽を媒介したコミュニケーションの実際 (施設体験) ④ 10 音楽を媒介したコミュニケーションの実際 (施設体験) ⑤ 11 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～認知症～ 12 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～視覚・聴覚障害～ 13 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～知的・精神障害～ 14 介護におけるチームのコミュニケーション 記録 報告・連絡・相談 会議 15 試験 			
[使用テキスト・参考文献] コミュニケーション技術 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 試験 提出物、出席状況	

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術B (住居)		授業の種類 演習		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 (後期)		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間生活における住宅・住環境の意味・役割・重要性・社会性を理解できる基礎的な知識を身につけ、主体的な住み手、また介護の専門職として安全で心地よい生活空間づくりができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>・住まい・住環境の基礎的な知識、役割について講義、演習、グループワークを行い、理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1. 住宅、住環境の役割・重要性・社会性について理解し、説明できる。</p> <p>2. 住まいと生活にかかわる健康・安全などの問題について基礎的な理解ができ、説明できる。</p> <p>3. 住まいづくり、まちづくりに必要な基礎的な理解ができ、説明できる</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、住宅環境の意義と目的 2 高齢社会における居住環境整備の必要性 3 住み慣れた地域での生活：日本各地の住まい、気候風土と住宅、住環境① 4 住み慣れた地域での生活：日本各地の住まい、気候風土と住宅、住環境② 5 ユニバーサルデザイン①ノーマライゼーション 6 ユニバーサルデザイン②障害に応じたデザイン 7 住まいづくりのワークショップ：障害に応じたデザイン 8 住まいづくりのワークショップ：安全でこちよい住環境 9 室内環境と安全 10 住まいの防犯性能 11 自然災害と安全な住まい 12 子ども、障害者に優しい住宅づくり 13 高齢者に優しい住宅づくり 14 まとめ 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] メヂカルフレンド社 「生活支援技術 I」		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (70%)、授業態度、出席、提出物 (30%) について総合的に判断する		

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術C (調理)		授業の種類 実習・講義		授業担当者 西村 佳菜子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基礎となる家庭生活とそこで営まれる衣・食・住の「食」に関する理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・調理の基礎 講義、実習 ・対象者別の調理 講義、実習</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・高齢者の栄養管理の重要性を理解し、「食ること」の意義を認識する ・高齢者を支える食事について実習を通して身につける</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 調理の基本 炊飯、野菜の下処理、調味率 衛生管理 調理器具 点検 準備・後始末 2 栄養に関する基礎・食中毒 (講義) 3 和食 4 洋食 5 中華料理 6 行事食 I 7 行事食 II 8 疾病治療の食事 (講義) 9 糖尿病食 10 腎臓食 (減塩食含む) 11 脂質異常症食 12 高齢者の食事・摂食嚥下 (講義) 13 軟菜食 14 嚥下食 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術I」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] 1. 出席状況 2. 授業、実習態度 3. 試験 4. レポート等提出状況	

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術D		授業の種類 演習		授業担当者 植野 弘子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 後期		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 衣生活の自立を支援するための基礎知識と技能を習得する。				
[授業全体の内容の概要] 講義と演習を通して身じたくの意義を理解し、場面に応じた衣生活について考える。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 個々の利用者に適した衣生活自立への支援ができる実践力を養う。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> 1. 身じたくの自立を支援する基礎知識 (繊維の性質と用途・取扱い) 2. 身じたくの自立を支援する基礎知識 (手縫いの基本) 3. 身じたくの自立を支援する基礎知識 (手縫いの基本) 4. 手縫いの応用 (ポケットティッシュケース製作) 5. 身じたくの自立を支援する基礎知識 (かぎ針編み) 6. かぎ針編みの応用 (コースター、アクリルたわし等) 7. 身じたくの自立を支援する基礎知識 (ミシン縫いの基本) 8. ミシン縫いの応用 (イージーパンツ製作) 9. ミシン縫いの応用 (イージーパンツ製作) 10. ミシン縫いの応用 (イージーパンツ製作) 11. 日常活動と身じたくを考える (生活支援用エプロン製作) 12. 日常活動と身じたくを考える (生活支援用エプロン製作) 13. 日常活動と身じたくを考える (生活支援用エプロン製作) 14. まとめ 15. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術Ⅱ」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] 定期考査：製作作品、筆記試験 その他：出席・授業態度	

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術E (介護技術)		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 30回	時間数(単位数) 90時間 (3単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>自立に向けた「身じたくの介護」「移動の介護」「食事の介護」「入浴・清潔保持の介護」について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>利用者の心身の状態に応じた尊厳のある自立に向けた介護が実践できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援技術を学ぶにあたって 2. 3 生活環境の整備 (ベッドメイキング) 4. 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫 5. 自立に向けた身じたくの介護 (洗面・整髪・ひげの手入れ・爪・化粧等) 6. 自立に向けた身じたくの介護 (口腔の清潔) 7. 8. 9 自立に向けた身じたくの介護 (衣類着脱) 10. 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント、安全で気兼ねなく動けることを支える介護 11. 12. 13 自立に向けた移動の介護 (ボディメカニクス、体位変換) 14. 15. 16 自立に向けた移動の介護 (安楽な体位の保持、立位・歩行の介護) 17. 18. 19 自立に向けた移動の介護 (車椅子の介護) 20. 食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント、「おいしく食べる」ことを支える介護 21. 22. 23. 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法) 24. 入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント 25. 26. 27. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (入浴、シャワー浴、足浴、手浴) 28. 29. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (全身清拭、陰部洗浄、洗髪) 30. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・実技試験 出席状況・授業態度・身だしなみ		

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術E (介護技術)		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 1年通年 (後期)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>自立に向けた「食事の介護」「排泄の介護」「睡眠の介護」と「終末期の介護」について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>利用者の心身の状態に応じた尊厳のある自立に向けた介護が実践できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法) 2 排泄の意義と目的、排泄に関する利用者のアセスメント、「気持ちよい排泄」を支える介護 3 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法) 4 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法) 5 自立に向けた排泄の介護 6 自立に向けた排泄の介護 (トイレ・ポータブルトイレ) 7 自立に向けた排泄の介護 (オムツ) 8 自立の向けた排泄の介護 (尿器・差し込み便器) 9 自立に向けた睡眠の介護 10 安眠を促す介護の技法 11 終末期における介護の意義・目的、利用者のアセスメント 12 終末期における介護、医療との連携 13 自立の向けた生活支援技術 (まとめ) 14 自立の向けた生活支援技術 (まとめ) 15 試験 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「生活支援技術 I・II」 メヂカルフレンド社</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験・実技試験 出席状況・授業態度・身だしなみ</p>		

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術F (聴覚・言語障害)		授業の種類 演習	授業担当者 福井 華世
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>聴覚障害や言葉に障害があるため、生活を営むうえで、どのような困難を抱えているかを知り、支援を行う際に必要な知識や技術を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>聴覚障害のある人の生活支援技術の基本的な観点を理解する。 言葉の障害の原因によって異なる生活支援技術の具体的な内容を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>生活支援に際してコミュニケーションの観点から、配慮した支援ができる知識と技術を修得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 耳の構造 2 聴力とコミュニケーション手段 3 コミュニケーション支援 4 補聴器・人工内耳 5 他の感覚経路の使用 6 コミュニケーション促進技法 7 環境支援 8 重複障害への支援 9 事例 10 言葉の障害のタイプ分類 11 言葉に障害を認める人の生活支援技術の原則 12 発話障害のある人の生活支援技術 13 脳損傷による言語障害のある人の生活支援技術 (居住環境) 14 脳損傷による言語障害のある人の生活支援技術 (移動・食事等) 15 まとめ・試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「障害別生活支援技術」メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 試験・授業態度・出席状況を総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術G (知的・肢体・重複)		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 23回		時間数(単位数) 45時間 (1単位)		配当学年・時期 2年 前期	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 障害の種類とその特性や原因、障害を持つ人の心理と家族の関係、介護者としての役割について学ぶ。移動支援サービスに関する知識・技術を習得し、自立に向けた安全な介護方法を理解できる。					
[授業全体の内容の概要] 講義を通して障害者の疾病・障害を理解した上で、演習による移動の介護を習得する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 障害の特性に応じ、根拠に基づいた介護方法を理解できる。安全で正確な移動の支援を行なうことができる。障害者福祉への関心と継続的考察への動機づけ。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ol style="list-style-type: none"> 1 移動の介護に係る制度及びサービス・ガイドヘルパーの制度と業務 2 全身性障害者の生活の理解 3 全身性障害者の疾病、障害について (脳血管障害) 4 全身性障害者の疾病、障害について (骨関節疾患・筋ジストロフィー) 5 全身性障害者の疾病、障害について (頭部外傷・脊髄小脳変性症) 6 全身性障害者の疾病、障害について (脊髄損傷・筋萎縮性側索硬化症) 7 知的障害者の疾病、障害等に関する講義と演習 8 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた住環境・身支度) 9 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた移動・食事) 10 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた家事・睡眠・終末期) 11 障害者の心理・家族の心理 12 基礎的な移動の介護に係る技術に関する講義 13 重症心身障害児の介護と生活の実際 14 外出の介護に係る技術に関する演習 15 試験 16 ノーリフティングケア 17 ノーリフティングケア 18 車椅子への移乗、ベッド上・畳間の体位変換、安楽の工夫 19 排泄及び、入浴浴槽への移乗、床から椅子・ベッドへの移乗 20 外出の介護に係る技術に関する演習 21 福祉用具見学・体験 (土佐ガスaico) 22 福祉用具見学・体験 (土佐ガスaico) 23 まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 「ガイドヘルパー研修テキスト (全身性障害編)」 中央法規出版 「障害別生活支援技術」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] 定期試験・提出物・出席状況 授業態度等により総合的に評価		

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術H (視覚)		授業の種類 演習	授業担当者 金平景介・福井華世
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 視覚障害を正しく理解し、視覚障害者への正しい手引き方法と接し方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者 (児) 福祉の制度とサービスの種類や内容、同行援護従業者の業務 ・業務において直面する頻度の高い障害・疾病 ・移動支援の基本・応用技術の習得 ・視覚障害者向け機器展示室「ルミエールサロン」への見学 </p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 視覚障害者の基礎知識を修得し、同行援護従業者養成研修課程の資格を取得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 視覚障害者 (児) 福祉サービス 2 同行援護の制度と従業者の業務 3 障害・疾病の理解 4 障害者 (児) の心理 5 情報支援と情報提供 6 代筆・代読の基礎知識 7 同行援護の基礎知識 8・9・10 基本技能 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつしてから基本姿勢まで・基本姿勢と留意点・してはいけないこと ・歩行、曲がる・狭い場所の通過・ドアの通過・いすへの誘導 11・12・13 応用技能 <ul style="list-style-type: none"> ・食事・トイレ・車いす利用の視覚障害者への対応・環境に応じた歩行・さまざまな階段 ・さまざまなドア・エレベーター、エスカレーター・車(タクシー)の乗降、車内介助 14 視覚障害者向け機器展示室「ルミエールサロン」への見学 15 試験</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 「同行援護従業者養成研修テキスト」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 試験 提出物、授業態度および出席状況 ※ 欠席者は、授業時間外で補講を行い、適切な技術を身に付けた学生に同行援護従業者養成研修修了認定を授与する。</p>	

授業のタイトル (科目名) 手話 I		授業の種類 演習		授業担当者 前田 真紀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害・者についての理解を深める。 ・ 簡単な手話表現ができる技術を習得する。 ・ 全国手話検定試験5級受験にむけての学習を行う。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省手話奉仕員養成講座 (入門課程) テキスト及び全国手話検定4級に基づく学習を行う。 ・ ゲスト講師を招き、実際に手話で会話を行う。 ・ 聴覚障害・者について理解をさらに深めるために、聴覚障害や手話についての基礎知識を学ぶ。 <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶や自己紹介程度の会話が可能になる。 ・ 聴覚障害・者についての理解を深め、介護現場でどのような対応をしたらよいかを考え、それを実践できるようになる。 ・ 全国手話検定試験5級程度のレベルになる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/授業の概要を知る。音声以外のコミュニケーションを意識する。 2 自己紹介/①名前 ②家族 3 「聴覚障害者の生活」/講義 4 自己紹介/③趣味 ④数字 5 自己紹介/⑤仕事 ⑥家 6 「聴覚障害者の基礎知識」/講義 7 対話の基礎練習/①一日 ②一か月 ③一年 8 体験学習/手話でのコミュニケーション 9 検定試験5級受験対策①/出題範囲の単語確認 10 検定試験5級受験対策②/出題範囲の単語確認 11 検定試験5級受験対策③/手話スピーチの練習 12 検定試験5級受験対策④/手話スピーチの練習 13 検定試験5級受験対策⑤/面接の練習 14 検定試験5級受験対策⑥/面接の練習 15 総合学習/学習のまとめ 				
<p>[使用テキスト] わたしたちの手話学習辞典</p> <p>[参考文献]</p> <p>手話奉仕員養成講座入門課程テキスト (入門)</p> <p>DVDで学ぶ手話の本 (手話検定5級対応)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>提出物・授業態度・実技・レポートなど</p>		

授業のタイトル (科目名) 手話 II		授業の種類 演習		授業担当者 前田 真紀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害・者についての理解をさらに深める。 ・ コミュニケーション力を高め、自分の体験、意見や考えを手話表現ができる技術を習得する。 ・ 全国手話検定試験4級受験にむけての学習を行う。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省手話奉仕員養成講座 (入門課程) テキスト及び全国手話検定4級に基づく学習を行う。 ・ ゲスト講師を招き、実際に手話で会話を行う。 ・ 聴覚障害・者について理解をさらに深めるために、聴覚障害や手話についての基礎知識を学ぶ <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害者との円滑なコミュニケーションが図れるよう、周りに働きかけ、自らも積極的に話しかけることができるようになる。 ・ 聴覚障害・者についての理解を深め、介護現場でどのような対応をしたらよいかを考え、それを実践できるようになる。 ・ 全国手話検定試験4級に合格する。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション及び手話 I の復習/自己紹介をする 2 対話の基礎練習/旅行の計画 3 会話練習/予定をきく 「手話の基礎知識」 /講義 4 会話練習/行事や食事の誘い 5 会話練習/理由を尋ねる 手話スピーチの練習 6 授業の感想 手話スピーチの発表 7 ろう者とのフリーディスカッション 8 実習先での会話練習及び聴覚障害者への対応について 9 検定試験4級受験対策①/出題範囲の単語の確認 10 検定試験4級受験対策②/出題範囲の単語の確認 11 検定試験4級受験対策③/手話スピーチの練習 12 検定試験4級受験対策④/手話スピーチの練習 13 検定試験4級受験対策⑤/面接の練習 14 検定試験4級受験対策⑥/面接の練習 15 総合学習/学習のまとめ 				
<p>[使用テキスト] 私たちの手話学習辞典 [参考文献]手話奉仕員養成講座入門課程テキスト DVDで学ぶ手話の本 (手話検定4級対応)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 提出物・授業態度・実技・レポートなど</p>	

授業のタイトル (科目名) 介護過程A		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義・目的を理解し、それぞれの過程において必要な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習を通して、介護過程の展開の全体像を把握する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程の展開の全体像を他者に説明することができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護過程の意義と目的 2 展開のプロセスと基本的視点 3 アセスメント [情報収集] 4 アセスメント [情報収集] 5 情報の解釈・関連づけ・統合化 6 過程の明確化 7 アセスメントの実際 8 計画の立案 9 目標設定 10 具体的な支援内容・方法の設定 11 実施 12 実施 13 評価 14 評価 15 まとめ・試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」〔第2版〕中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) 介護過程B		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他教科で学習した知識・技術を統合して介護過程を展開し、介護過程を展開するための情報収集・解釈・分析・統合・課題の抽出を学ぶ。施設体験を通してアセスメント方法と、瞬時に理解できる記録方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義・演習を通して介護過程の展開の目的・手順・展開方法を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>アセスメントについて、目的を持った情報収集と正確な記録ができる。また、得た情報を分析して、課題を導き出すことができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護過程の展開のプロセス・基本姿勢の確認 2 アセスメントとは 3 第1段階介護福祉実習で、学んだことの振り返り 4 情報の収集 (フェイスシート) が持つ意味について 5 事例を通して、情報の収集 (個人ワーク) 6 事例を通して、情報の分析・解釈・統合化 (個人・グループワーク) 7 事例を通して、情報の分析・解釈・統合化 (グループワーク) 8 アセスメント (施設体験) 9 アセスメント (施設体験) 10 アセスメント (施設体験での学びを学校で整理) 11 アセスメント (施設体験で学んだことを発表) 12 アセスメントについて、振り返り (実習に向けて) 13 第2段階介護福祉実習で学んだことの振り返り 14 全体のまとめ 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」(第2版) 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・態度・出席状況・提出物を総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) 介護過程C		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他教科で学習した知識・技術を統合して介護過程を展開し、利用者個別のよりよい人生を支援するための介護計画の立案・実践できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事例を通して介護過程の展開を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 利用者を多角的に捉え、個別の介護計画を立案・実践・評価できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護過程の意義・構成要素 2 介護過程におけるアセスメント 3 ニーズを見つける視点とニーズの判断 4 介護計画の意義 5 目標と期間の設定について 6 援助方法の設定と記録 7 介護計画の実施と記録 8 介護計画の実施 9 介護計画の評価 10 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例) 11 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例) 12 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例) 13 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例) 14 自立に向けた介護計画の展開と実際 (事例) 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」(第2版) 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) 介護過程D		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生 後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護過程とチームアプローチを理解するためのプロセスを通して、介護福祉士の役割を理解する。 介護研究の意義と方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 第3段階介護福祉施設実習において、より良い生活を支援する力を養うため、深く関わらせていただいたご利用者の介護過程の実践における学びについて、専門的知識、基本的技術を持って深く分析するためケースレポートを作成する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ケースレポートが構成の流れに沿って作成することができる。第3段階実習時の介護過程の展開における、学んだことと今後の課題を述べるができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉実習における受け持ち利用者の介護計画実践の振り返り 介護福祉の現場とケーススタディ ～ケーススタディの目的・介護福祉士にとってのケーススタディとは。研究から学べること～ 2 チームアプローチにおける介護福祉士の役割～他職種協働のケア～ 3 ケーススタディで身につくスキル～文章表現・文章技法、プレゼンテーション力～ 4 ケーススタディの進め方～ケースレポートの構成と作成上の注意点～ 5 ケースレポートの作成 6 ケースレポートの作成 7 ケースレポートの作成 8 ケースレポートの作成 9 ケースレポートの作成 10 ケースレポートの作成 11 ケースレポートの作成 12 ケースレポートの作成 13 ケースレポート発表準備 14 ケースレポート発表 15 ケースレポート発表 				
[使用テキスト・参考文献] ケースレポート作成の手引き 適宜、配布		[単位認定の方法及び基準] 授業中の態度及び出席状況、レポート提出状況と内容、発表会での態度を含め、総合的に評価する		

授業のタイトル (科目名) 介護過程E		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] パソコン操作の基本を学び、レポートや報告書、お知らせ等、職場で必要となるパソコン能力を身につける。また事例研究発表に向けて、プレゼンテーション資料の作成方法を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 職場の業務になじめるよう、一般的なパソコン操作の基本を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 文章や表作成、発表用資料の作成ができるパソコン能力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 ワード操作①</p> <p>2 ワード操作②</p> <p>3 ワード操作③</p> <p>4 ワード操作④</p> <p>5 ワード操作⑤</p> <p>6 エクセル操作①</p> <p>7 エクセル操作②</p> <p>8 エクセル操作③</p> <p>9 エクセル操作④</p> <p>10 パワーポイント操作①</p> <p>11 パワーポイント操作②</p> <p>12 パワーポイント操作③</p> <p>13 パワーポイント操作④</p> <p>14 パワーポイント操作⑤</p> <p>15 パワーポイント操作⑥</p>				
[使用テキスト・参考文献] 授業内で適宜、配布			[単位認定の方法及び基準] 課題提出 出席状況 授業態度 を総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習A		授業の種類 演習	授業担当者 和田 理砂・片岡 史陽・福井 華世	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>第1介護福祉実習の教育効果を上げるため、施設見学や演習を通してコミュニケーション方法や適切な記録物の作成方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 施設見学を実施する。</p> <p>2. 施設の種類や概要、基本的なコミュニケーション方法、実習記録物の書き方について概説する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①基本的コミュニケーション方法やマナーを習得する。</p> <p>②第1段階介護福祉実習に向けて施設の概要と利用者の理解を深め、介護福祉実習内容を明確化できる。</p> <p>③実習記録物の適切な書き方、表現方法が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1. ①介護福祉士に求められるもの ②特別養護老人ホームやすらぎの家見学オリエンテーション ③施設の種類と内容</p> <p>2. レポートの書き方 (レポート提出)</p> <p>3. 特別養護老人ホームやすらぎの家見学後の振り返り 特別養護老人ホームうららか春陽荘オリエンテーション (ユニットケアについて)</p> <p>4. 特別養護老人ホームうららか春陽荘見学後の振り返り</p> <p>5. 介護福祉実習の意義と目的、介護福祉実習に向けて (希望調査)</p> <p>6. 介護福祉実習に向けて事前準備 (個人票、通学届)</p> <p>7. 介護福祉実習に向けて事前準備</p> <p>8. 実習記録の書き方①</p> <p>9. 行事・企画の方法～七夕行事に向けて～</p> <p>10. 七夕行事の企画</p> <p>11. 七夕行事の準備</p> <p>12. 実習記録の書き方②</p> <p>13. 実習記録の書き方③</p> <p>14. 実習に行くまでに身につけておきたいマナーについて</p> <p>15. 実習オリエンテーション</p>				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」 建帛社		[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する		

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習B		授業の種類 演習	授業担当者 和田 理砂・片岡 史陽・福井 華世	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい] 演習や体験学習を通して、利用者一人ひとりのこだわりや生活の違いについて学び、介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 在宅サービスの特性、利用者・家族の生活、在宅介護実習の意義について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 在宅介護の現状・問題点を多方面から理解し、学校で学んだ知識・技術を統合させて実習時に適応できる柔軟性、応用力、判断力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅実習の意義と目的 2. 利用者について考える 3. 生活について考える 4. サービスの特性・概要① 5. サービスの特性・概要② 6. サービスの特性・概要③ 7. 体験学習の学びについて発表 8. 在宅介護を支援する立場の家族の理解・在宅での介護を円滑にするための留意点 9. 在宅介護を支援する立場の家族の理解・在宅での介護を円滑にするための留意点 10. 実習事前準備 (記録方法) 11. 実習事前準備 (記録方法) 12. 実習事前準備 (記録方法の実際) 13. 実習事前準備 (資料作成) 14. 実習事前準備 (資料作成) 15. 実習に向けてのまとめ 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」 建帛社		[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する		

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 C	授業の種類 演習	授業担当者 和田 理砂・片岡 史陽・福井 華世	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習を通じて専門的知識・技術を実践するための、具体的な方法を学ぶ。 また介護福祉実習に向け、自己の学びや思いを言語化する力を高める学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>第1段階実習、第2段階実習の壮行会と報告会を実施する。意見のまとめ方、発表の仕方についての基本的な視点を概説する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>自己の学びや思いを、実習日誌に言語化できる。 さらに、他者理解が必要な基本的コミュニケーション方法や、姿勢を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1段階介護福祉実習前訪問準備等 2 第1段階介護福祉実習前訪問 (平成30年10月2日) 3 第1段階介護福祉実習準備 (記録の書き方) 4 第1段階介護福祉実習壮行会準備 5 第1段階介護福祉実習 中間登校日 (平成30年10月22日) 6 第1段階介護福祉実習振り返り・第2段階介護福祉実習準備 7 第2段階介護福祉実習準備 8 第2段階介護福祉実習準備 (個人票・通学届作成など) 9 第2段階介護福祉実習準備 (個人票・通学届作成など) 10 第2段階介護福祉実習準備 11 第2段階介護福祉実習前訪問 (平成31年1月10日) 12 第2段階介護福祉実習準備 13 第2段階介護福祉実習壮行会準備 14 第2段階介護福祉実習 中間登校日 (平成30年2月4日) 15 第3段階介護福祉実習に向けて・報告会準備 			
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」 健帛社		[単位認定の方法及び基準] 提出物 出席状況 授業態度	

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習D		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必須
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>第1・第2段階介護福祉実習での学び、課題を踏まえ、第3段階介護福祉実習において総合的に利用者の日常生活の援助ができるように準備を行い、「気づき」「追求」「考察」「表現」ができる力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>記録指導に重点を置き、考察力を身につける。実習に向けての心身の準備、知識・技術の確認と自己課題を再確認し、解決できる取り組みを個人個人が理解できる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①グループワークや個人の作業を通し、自己の課題を把握できる。 ②考察ができる力を身につけ、記録が適切にできる。 ③就職を見据えて、障害・介護サービス内容が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第3段階介護福祉実習オリエンテーション 2 実習準備 (第1・第2段階実習の振り返り) 3 実習準備 (個人個人の課題を明らかにする、取り組み方法の検討) 4 実習準備 (課題に沿った自己学習レポート作成) 5 実習準備 6 実習準備 7 実習準備 8 実習打ち合わせ会準備 9 実習打ち合わせ会準備 10 実習準備 11 実習前訪問 12 実習壮行会準備 13 中間登校日 14 実習の振り返り、実習報告会の準備 15 実習の振り返り 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」建帛社			[単位認定の方法及び基準] 提出物・出席状況・授業態度で評価する	

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習D		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必須
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>第1・第2段階介護福祉実習での学び、課題を踏まえ、第3段階介護福祉実習において総合的に利用者の日常生活の援助ができるように準備を行い、「気づき」「追求」「考察」「表現」ができる力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>記録指導に重点を置き、考察力を身につける。実習に向けての心身の準備、知識・技術の確認と自己課題を再確認し、解決できる取り組みを個人個人が理解できる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①グループワークや個人の作業を通し、自己の課題を把握できる。 ②考察ができる力を身につけ、記録が適切にできる。 ③就職を見据えて、障害・介護サービス内容が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第3段階介護福祉実習オリエンテーション 2 実習準備 (第1・第2段階実習の振り返り) 3 実習準備 (個人個人の課題を明らかにする、取り組み方法の検討) 4 実習準備 (課題に沿った自己学習レポート作成) 5 実習準備 6 実習準備 7 実習準備 8 実習打ち合わせ会準備 9 実習打ち合わせ会準備 10 実習準備 11 実習前訪問 12 実習壮行会準備 13 中間登校日 14 実習の振り返り、実習報告会の準備 15 実習の振り返り 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」建帛社			[単位認定の方法及び基準] 提出物・出席状況・授業態度で評価する	

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 講義	授業担当者 福井 華世
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理・身体的特徴に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の成長・発達に関する知識を習得するため、発達の定義と各発達段階の特徴、その課題が具体的に理解できるようにする。</p> <p>身体的・精神的・社会的変化について学び、生涯にわたって発達が理解できるようにする。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>誕生から死に至るまでの心身の発達や、成長・成熟、生理的変化が理解できる。その上で老化に伴う心身の変化、家庭や地域での役割の変化、心理的变化が理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 講義のオリエンテーション 2. 人間の成長と発達の基礎的理解 成長と発達の考え方 3. 人間の成長と発達 発達理論 4. 形態的成長 身体機能の発達 5. 形態的成長 精神運動機能・心理社会的発達 6. 形態的成長 発達の評価 発達理論・形態的成長 まとめ(第1章ふりかえり問題) 7. 社会からみた老年期 老年期の定義 高齢者施策 8. 社会からみた老年期 老年期をめぐる問題とこれからの老年観 9. 社会からみた老年期 まとめ(ふりかえり問題) 10. ライフサイクルのなかの老年期 老年期の成熟・生活基盤・家族関係 11. ライフサイクルのなかの老年期 老年期の喪失体験 死について 12. ライフサイクルを理解する ～高齢者が生きてきた時代～ 個人ワーク 13. ライフサイクルを理解する ～高齢者が生きてきた時代～ グループワーク 14. ライフサイクルを理解する ～高齢者が生きてきた時代～ プレゼンテーション 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「発達と老化の理解」 メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 出席および授業態度、提出物、試験を総合的に評価する	

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 福井 華世	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「発達と老化の理解Ⅰ」の学びを踏まえ、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う心理的变化や心身機能の変化、及び高齢者に多い症状や疾患に関する基礎知識を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「発達と老化の理解Ⅰ」で学んだ人間の成長・発達の基礎的知識をベースに、老化による心身機能の変化と日常生活上でのリスク、高齢者に多い症状や疾患について、介護実習や日常での高齢者とのかかわりから考える授業内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>加齢に伴う心身機能の変化の基礎知識を理解することで、高齢者の気持ちに寄り添い、高齢者を尊重することができる。</p> <p>健康寿命や介護予防のために、高齢者の日常生活上での支援の留意点を考察することができる。</p> <p>介護・医学関連用語を理解し、説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルのなかの老年期(発達段階ふりかえり) 2. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活(老化の特徴) 3. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活(加齢による生理機能の低下) 4. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活(加齢による生理機能の低下) 5. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活(知的・認知機能の変化と日常生活への影響) 6. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活(身体機能の低下の予防) 7. 高齢者の心理(高齢者の気持ちを理解する) 8. 高齢者の心理(老いの自覚等、様々な気持ちと気持ちを踏まえたかかわり) 9. 高齢者に多い症状・病気(高齢者に多い症状と日常生活上の留意点) 10. 高齢者に多い症状・病気(生活習慣病) 11. 高齢者に多い症状・病気(生活習慣病) 12. 高齢者に多い症状・病気(骨関節疾患、呼吸器疾患) 13. 高齢者に多い症状・病気(廃用症候群) 14. 高齢者に多い症状・病気(保健・医療職との連携) 15. 試験 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社			出席および授業態度、提出物、試験を総合的に評価する		

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 藤本 義将	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の医学的基礎知識を学び、ケアの基盤となる認知症の人の心理的体験について理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1、認知症の医学的基礎知識 2、認知症の人の心理および行動・心理症状のメカニズム 3、心理的アプローチとコミュニケーション</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1、認知症とは何か、医学的原因・症状・治療等の基礎的知識を理解する 2、認知症の人の心理を理解し、行動・心理症状の出現する背景について知識をもつ</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 認知症をとりまく状況</p> <p>2 認知症の医学的基礎知識 ①</p> <p>3 認知症の医学的基礎知識 ②</p> <p>4 認知症の医学的基礎知識 ③</p> <p>5 認知症の医学的基礎知識 ④</p> <p>6 認知症の人の心理的特徴 ①</p> <p>7 認知症の人の心理的特徴 ②</p> <p>8 認知症の人の心理的特徴 ③</p> <p>9 認知症の人の行動・心理症状の理解と対応 ①</p> <p>10 認知症の人の行動・心理症状の理解と対応 ②</p> <p>11 認知症の人の行動・心理症状の理解と対応 ③</p> <p>12 認知症の人への心理的アプローチ ①</p> <p>13 認知症の人への心理的アプローチ ②</p> <p>14 介護者の心理</p> <p>15 試験</p>					
[使用テキスト・参考文献] 「認知症の理解」中央法規出版 参考文献；適時紹介			[単位認定の方法及び基準] ①出席日数 ②授業への参加姿勢 ③試験 ④レポート提出		

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 藤本 義将	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人のケアと生活支援の視点を理解し、その援助方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症の人の生活の多面的な理解と介護の方法 家族への支援と地域のサポート体制 認知症の人の権利を守る制度、施策など</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症のケアの視点と方法を理解する。 家族への支援、地域づくり、専門職の連携について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 認知症の人のケア ① (認知症ケアの歴史)</p> <p>2 認知症の人のケア ② (認知症ケアの基本的考え方)</p> <p>3 認知症の人のケア ③ (尊厳を支えるケアの実践)</p> <p>4 認知症の人のケア ④ (尊厳を支えるケアの実践)</p> <p>5 認知症の人のケア ⑤ (認知症の人と環境)</p> <p>6 認知症の人のケア ⑥ (認知症の人と環境)</p> <p>7 認知症の人のケア ⑦ (認知症の人と環境)</p> <p>8 認知症の人のケア ⑧ (施設ケア・在宅ケア・地域ケア)</p> <p>9 認知症の人のケア ⑨ (ターミナルケア)</p> <p>10 認知症の人のケア ⑩ (ICFの視点に基づく認知症ケア)</p> <p>11 家族への支援 ①</p> <p>12 家族への支援 ②</p> <p>13 認知症の人の権利を守る ①</p> <p>14 認知症の人の権利を守る ②</p> <p>15 試験</p>					
[使用テキスト・参考文献] 「認知症の理解」中央法規出版 参考文献は適時紹介			[単位認定の方法及び基準] ①出席日数 ②授業への参加姿勢 ③試験 ④レポート提出		

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 (後期)		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、本人のみならず、家族を含めた支援が地域、社会でどのように展開されてきたか、制度など社会環境がどのように変遷してきたか理解し、介護の視点を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の概念、障害福祉の基本理念などの基礎的理解ができるようにする。また地域連携、多職種協働によるチームケアの必要性が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①障害の概念が説明できる ②ノーマライゼーションの理念について説明できる ③障害のある人の自己決定・エンパワメントが理解でき、説明できる</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と障害福祉 2 障害者の概念と定義 3 障害者福祉の歴史 (昭和初期から障害者総合支援法まで) 4 障害者福祉に関する法律 5 障害者福祉の理念① (ノーマライゼーション) 6 障害者福祉の理念② (リハビリテーション、インクルージョン) 7 障害者福祉に関係する機関、施設、関わる職種 8 障害者福祉の地域におけるサポート体制 9 社会資源の種類と利用、開発 10 障害のある人に対する介護の基本的視点①自己決定 11 障害のある人に対する介護の基本的視点②エンパワメント、アドボカシー 12 家族支援 (ハード面、ソフト面) 13 家族ニーズと介護負担の軽減 (レスパイトケア) 14 まとめ 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 新介護福祉士養成講座 第4版 「障害の理解」			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する	

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 入川 真理
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必須
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の種類、その基礎疾患に対する医学的知識を習得する。 ・ 機能障害に伴い、医療的器具を使用している利用者の器具の管理方法、精神状態、健康状態の管理方法を学ぶ。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に影響している障害、疾患の基礎知識を医学的側面から学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を起こしている疾患を理解する。 ・ 身体機能の障害が生活へ及ぼす影響を理解する。 ・ 医療的援助方法を理解し、他職種との連携の必要性を学ぶ。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼疾患 視覚障害 聴覚・言語疾患・障害 2. 運動機能障害 3. 運動機能障害 4. 知的障害 (疾患) 5. 精神障害 (疾患) 6. 高次機能障害 7. 発達障害 8. 内部障害 (心機能疾患) 9. 内部障害 (腎機能障害) 10. 内部障害 (呼吸器障害) 11. 内部障害 (膀胱・直腸機能障害) 12. 内部障害 (肝機能障害) 13. 内部障害 (H I V 難病) 14. 補足 見直し 15. 試験 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解 第4版 中央法規</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況、授業態度 筆記試験</p>	

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 講義	授業担当者 福井 華世
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能の知識を習得したうえで介護サービス提供における安全への留意点を身体的、心理的側面から理解する。 こころのしくみを介護実践との関連の中で理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造や機能、こころのしくみの基礎を理解したうえで、生命維持のしくみや人間の基本的欲求について習得する。 生活支援において、人体構造・機能、こころのしくみの基礎知識及び機能低下や障害が及ぼす影響を考えたうえで安全・安楽で自立に向けたケアが根拠に基づいて実践できるよう生活支援技術と関連付けて学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造や機能、こころのしくみの基礎を理解し機能低下・障害が及ぼす影響を考慮して安全・安楽で自立に向けたケアが実践できるようになる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 「生きている」しくみの理解 からだの成り立ちの理解 「生きている」しくみの理解 生命活動を調節するしくみ 「生きている」しくみの理解 外界の変化に対応し調節、修復、再生するしくみ ヒトの一生のリズム こころのしくみの理解 脳のつくりと働きの理解 こころのしくみの理解 こころと脳のつながり こころのしくみの理解 社会的人間としての (人間の行動を引きおこす) こころのしくみ 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 基礎知識 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 機能低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 生活場面におけるこころとからだの変化の気づき 活動・移動に関連したこころとからだの基礎知識 活動・移動に関連したこころとからだのしくみ 活動・移動に関連したこころとからだのしくみ 機能低下・障害が及ぼす活動・移動への影響 活動・移動に関連したこころとからだのしくみ 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 前期まとめ まとめ・試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 80% 提出物 10% 出席状況・授業態度 10%	

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみI		授業の種類 講義		授業担当者 福井 華世																												
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年通年 (後期)		必修・選択 必修																												
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能の知識を習得したうえで、介護サービス提供における安全への留意点を身体的、心理的側面から理解する。 こころのしくみを介護実践との関連の中で理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造や機能、こころのしくみの基礎を理解したうえで生命維持のしくみや人間の基本的欲求について習得する。 生活支援において、人体構造・機能、こころのしくみの基礎知識及び機能低下や障害が及ぼす影響を考えたうえで安全・安楽で自立に向けたケアが根拠に基づいて実践できるよう生活支援技術と関連付けて学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造や機能、こころのしくみの基礎を理解し機能低下・障害が及ぼす影響を考慮して安全・安楽で自立に向けたケアが実践できるようになる。 																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1 「食事」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>食事に関する基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2 「食事」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>食事の意義、食事の心理社会的意義</td> </tr> <tr> <td>3 「食事」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>機能低下や障害が及ぼす食事への影響</td> </tr> <tr> <td>4 「食事」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>安全な食事のための留意点</td> </tr> <tr> <td>5 「食事」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>6 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>入浴・清潔保持に関する基礎知識</td> </tr> <tr> <td>7 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>機能低下や障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響</td> </tr> <tr> <td>8 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>異常発見のために注意すべき「変化」</td> </tr> <tr> <td>9 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>10 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>排泄に関する基礎知識</td> </tr> <tr> <td>11 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>排泄の意義としくみ</td> </tr> <tr> <td>12 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>機能低下や障害が及ぼす排泄への影響</td> </tr> <tr> <td>13 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>異常発見のために注意すべき「変化」</td> </tr> <tr> <td>14 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>15後期試験</p>					1 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	食事に関する基礎知識	2 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	食事の意義、食事の心理社会的意義	3 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	機能低下や障害が及ぼす食事への影響	4 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	安全な食事のための留意点	5 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	まとめ	6 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔保持に関する基礎知識	7 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	機能低下や障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響	8 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	異常発見のために注意すべき「変化」	9 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	まとめ	10 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関する基礎知識	11 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	排泄の意義としくみ	12 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	機能低下や障害が及ぼす排泄への影響	13 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	異常発見のために注意すべき「変化」	14 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	まとめ
1 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	食事に関する基礎知識																															
2 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	食事の意義、食事の心理社会的意義																															
3 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	機能低下や障害が及ぼす食事への影響																															
4 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	安全な食事のための留意点																															
5 「食事」に関連したこころとからだのしくみ	まとめ																															
6 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔保持に関する基礎知識																															
7 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	機能低下や障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響																															
8 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	異常発見のために注意すべき「変化」																															
9 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	まとめ																															
10 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関する基礎知識																															
11 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	排泄の意義としくみ																															
12 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	機能低下や障害が及ぼす排泄への影響																															
13 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	異常発見のために注意すべき「変化」																															
14 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	まとめ																															
[使用テキスト・参考文献] 「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 80% 提出物 10% 出席状況 10%																														

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 福井 華世	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能の知識を習得したうえで介護サービス提供における安全への留意点を身体的、心理的側面から理解する。 こころのしくみを介護実践との関連の中で理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造や機能、こころのしくみの基礎を理解したうえで、生命維持のしくみや人間の基本的欲求について習得する。 生活支援において、人体構造・機能、こころのしくみの基礎知識及び機能低下や障害が及ぼす影響を考えたうえで安全・安楽で自立に向けたケアが根拠に基づいて実践できるよう生活支援技術と関連付けて学ぶ。 <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造や機能、こころのしくみの基礎を理解し機能低下・障害が及ぼす影響を考えて安全・安楽で自立に向けたケアが実践できるようになる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 機能低下・障害が及ぼす活動・移動への影響 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ まとめ (ふりかえり問題) 排泄に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識 排泄に関連したこころとからだのしくみ 機能低下・障害が及ぼす活動・移動への影響 排泄に関連したこころとからだのしくみ 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 排泄に関連したこころとからだのしくみ まとめ (ふりかえり問題) 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 睡眠が及ぼす活動・移動への影響 睡眠に関連したこころとからだのしくみ まとめ (ふりかえり問題) 死にゆく人のこころとからだのしくみ 「死」の捉え方 終末期から危篤時・死亡時のからだの理解 死にゆく人のこころとからだのしくみ 医療職との連携、グリーフケア 死にゆく人のこころとからだのしくみ まとめ (ふりかえり問題) 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 80% 提出物 10% 出席状況・授業態度 10%		

授業のタイトル (科目名) 医学一般		授業の種類 講義		授業担当者 入川 真理
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人体の構造、基本的な働きが理解でき、疾患に伴う症状が理解できる。また、多職種との連携の必要性、重要性が理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人体の構造と働き ②主な疾患の症状 概要 ③介護現場で役に立つ医療</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 人体の構造、各臓器の働きについての基礎的知識を習得し、異常症状が理解できる。 介護職が担う役割を理解し、多職種との連携の必要性、重要性が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の区分・細胞と組織・器官について 2. 呼吸器・循環器・消化器 3. 排泄器・皮膚・骨格系・筋系 4. 特殊感覚器系～五感・生殖器・免疫系 5. 主な疾患 貧血・出血傾向 6. 主な症状 チアノーゼ・ショック症状 7. 主な症状 呼吸器系に関する症状 8. 主な症状 排泄に関する症状 9. 主な症状 消化器系に関する症状 10. 主な症状 その他 (脱水、浮腫、発熱、痛み) 11. 主な症状 その他 (痙攣、意識障害、眩暈) 12. 主な症状 その他 (歩行障害、知覚異常、失語症) 13. 主な疾患の概要 14. 主な疾患の概要 15. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「医学一般」メヂカルフレンド社 介護福祉士のための医学一般			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、授業態度、試験	

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア		授業の種類 講 義	授業担当者 福井 華世
授業の回数 34回	時間数【単位数】 50時間(68時間)【4単位】	配当学年・時期 2年通年(前期)	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として必要な医療的ケアを、倫理性をもって安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・医療的ケア実施の背景 ・医療の倫理と人間の尊厳 ・保険医療制度とチーム医療 ・医療的ケアのリスクマネジメント ・喀痰吸引を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術(基本研修)の習得</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・人間の尊厳や医療の倫理を理解し、医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを尊重することができる。 ・人体の構造や機能を理解し、医療的ケアを安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術を身につけることができる。 ・正常と異常の判断ができ、かつ急変状態の対応が理解できている。 ・喀痰吸引基本研修修了</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアとは(医行為について、医療的ケアの背景) 2. 保健医療制度とチーム医療 3. 安全な実施のためのリスクマネジメント 4. 救急蘇生 5. 感染予防(感染とは、介護職の感染予防の意義・方法) 6. 感染予防の実際(手洗い・うがい) 7. 感染予防の実際(使い捨て手袋、マスク、ガウン・エプロンの使用) 8. 健康状態の把握(健康の定義・バイタルサインとは) 9. バイタルサイン測定の実際・正常と異常 10. 喀痰吸引の基礎知識(呼吸のしくみとはたらき) 11. 喀痰吸引の基礎知識(喀痰とは、喀痰吸引が必要な状態とは) 12. 人工呼吸器について(しくみと装着時の留意点) 13. 子どもの喀痰吸引とそれに伴う感染予防 14. 喀痰吸引時の観察と実施時の留意点 15. 喀痰吸引時のリスクマネジメントと急変・事故発生時の対応 16. 喀痰吸引に必要な物品(必要物品の根拠ならびに吸引器のしくみと使用方法) 17. 喀痰吸引の実施手順(口腔) 18. 喀痰吸引の実施手順(鼻腔) 19. 喀痰吸引の実施手順(気管カニューレ内) 20. 喀痰吸引実施後の記録・報告 21. 喀痰吸引に関する基礎知識・実施手順のまとめ 22. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 使用テキスト 中央法規出版 「別巻 医療的ケア」		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 筆記試験 80% 提出物、出席状況 20%	

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア		授業の種類 講 義		授業担当者 福井 華世
授業の回数 34回	時間数【単位数】 50時間(68時間)【4単位】	配当学年・時期 2年通年(後期)	必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士として必要な医療的ケアを、倫理性をもって安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養を安全・安楽に実施するための基礎知識と技術(基本研修)の習得 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳や医療の倫理を理解し、医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを尊重することができる。 ・人体の構造や機能を理解し、医療的ケアを安全かつ安楽に実施するための基礎知識・技術が習得できている。 ・正常と異常の判断ができ、かつ急変状態の対応が理解できている。 ・経管栄養基本研修修了 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>経管栄養の基礎知識(咀嚼と嚥下しくみ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経管栄養の基礎知識(食物の消化・吸収のしくみとはたらき) 2. 経管栄養の種類としくみ 3. 経管栄養で使用される栄養剤 4. 子どもの経管栄養と実施時の留意点 5. 経管栄養時の観察と実施時の留意点 6. 経管栄養時のリスクマネジメントと急変・事故発生時の対応 7. 経管栄養に必要な物品(必要物品の根拠と使用方法) 8. 経鼻経管栄養法の実施手順 9. 胃ろうによる経管栄養法の実施手順 10. 経管栄養実施後の記録・報告 11. 経管栄養に関する基礎知識・実施手順のまとめ 12. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 使用テキスト 中央法規出版 「別巻 医療的ケア」		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など) 筆記試験 80% 提出物・出席状況 20%		

授業のタイトル (科目名) 地域福祉論		授業の種類 演習		授業担当者 福井 華世	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2年 (前期)	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域福祉の推進は、介護福祉士倫理綱領でも謳われている。地域福祉の考え方（それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む）を基盤に、地域活動、交流活動に参加する。その活動を通して、地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。また、学生自身が地域住民としての自覚をもち、地域活動、交流活動に参加する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として必要な地域福祉の基礎的な知識を習得する。 ・地域住民の一員としての自覚をもち、地域活動、交流に自主的に参加する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、地域福祉活動実践計画書①の作成 2. 地域福祉活動実践計画書①の作成・提出 3. 地域福祉活動実践 4. 地域福祉活動実践 5. 地域福祉活動実践 6. 地域福祉活動実践 7. 地域福祉活動実践活動報告 (課題の抽出) 8. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 9. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 10. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 11. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 12. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 13. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 14. 地域福祉活動実践 (点字図書作成) 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
			出席及び授業態度、計画書・報告書等、提出物の内容・提出期限、ボランティア活動参加状況等で総合的に評価する		